

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

正午過ぎの円高リスク

<ポイント>

- ◆昨日は、豪 RBA が利下げを行わなかったことや原油などコモディティ価格が続伸したことから、米株価反落にも拘らず豪ドルなどコモディティ通貨が続伸した。こうしたドル安傾向の中で、ドルは円やユーロに対しても下落し、ドル全面安となった。ドル/円も軟化したが、120 円台前半での非常に狭い範囲での取引に留まった。
- ◆本日は、中国 9 月末外貨準備高(時刻未定)、日銀金融政策決定会合結果(時刻未定)、ドイツ 8 月鉱工業生産(15:00)、黒田日銀総裁定例記者会見(15:30)、デベル豪 RBA 総裁補発言(16:05)、英 8 月鉱工業生産(17:30)、ウィリアムズ SF 連銀総裁発言(3:00)などが予定されている。
- ◆中では日銀決定会合結果が最大の注目度で、市場では追加緩和期待が高まっているが、現時点では時期尚早で見送りとなる可能性が高く、発表後の円高リスクに注意したい。
- ◆また、中国 9 月末外準の前月比減少額が前月を上回る場合には、中国からの資金流出懸念・景気減速懸念が再び強まり、市場のリスク回避傾向から豪ドルにも売り圧力がかかるリスクがある。

昨日までの世界:ドル全面安、米株高一服

ドル/円は、東京時間は 120 円台半ばで横ばい推移だったが、欧州時間入りあたりからやや軟調となった。とは言え、米利回りが殆ど動かなかったことから、120 円台前半での非常に狭い範囲での取引に留まった。この間、米 8 月貿易赤字は 483 億ドルと前月および市場予想比で拡大したが、ドルへの悪影響は殆どみられなかった。対コモディティ通貨などでのドル安傾向だったが、本日に日銀決定会合を控えており、追加緩和期待が根強いことから、積極的に円を買う動きが出にくかったとみられる。

ユーロ/ドルは、全般的なドル安傾向の中で 1.11ドル台前半から 1.12ドル台後半へ上昇したが、昨日とほぼ同じレンジ内に留まった。

ユーロ/円は、対ドルで円よりもユーロの上昇の方が大きかったことから、134 円台半ばから 135 円台半ばへ上昇した。

豪ドル/米ドルは、豪 RBA 理事会で市場の一部で期待されていた追加緩和が行われず、声明文でも将来の追加緩和を明確に示唆する記述がみられなかったことから、結果発表後に 0.71 ドル台乗せとなった。その後も原油大幅高をはじめコモディティ価格が上昇したこともあって、一時 0.7175 ドルへ続伸した。

豪ドル/円も、RBA 理事会後に 85 円台後半へ上昇、その後 NY 時間にかけて 86 円台乗せとなり、一時 86.25 円の高値をつけた。

きょうの高慢な偏見: 正午過ぎの円高リスク

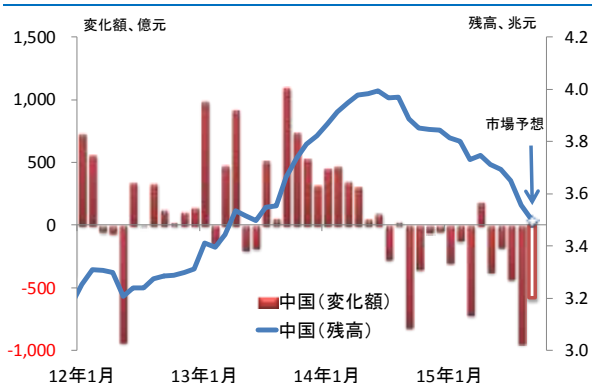
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は日銀決定会合結果が最大の注目となる。本邦 GDP が 7-9 月期もマイナスとなり技術的景気後退に陥るリスクやコア CPI がマイナスへ落ち込んだことなどから、市場では 10 月中、早ければ今回
会合での追加緩和期待が高まっている。もっとも、11 月 16 日の本邦 7-9 月期 GDP 発表など今後重要
イベントを控えていることから、現時点では時期尚早で見送りとなる可能性が高く、発表後は 119 円台
半ば程度への円高リスクに注意したい。なお、結果発表時刻は未定だが、10 月第 1 回会合における政
策変更なしの場合の平均発表時刻(09 年以降)は 12:34 となっている。

ユーロ/ドルは引き続き、個別材料が少ない中で 1.12 ドル丁度を中心としたレンジ取引が続きそうだ。

豪ドル/米ドルは、米利上げ見送り期待を背景とした株高やコモディティ高、そして RBA の利下げ見送り
などを受けて買い戻し基調が続いているものの、米株高は一服しており、コモディティ高も一服すれば
再び下落基調に戻るとみられる。なお、中国 9 月末外準(発表時刻は未定、前月分は 9 月 7 日 16:50
発表)で外準の前月比減少額が前月を上回る場合には、中国からの資金流出懸念・景気減速懸念が
再び強まり、市場のリスク回避傾向から豪ドルにも売り圧力がかかるリスクがある。現時点の市場予想
は残高 3.5 兆ドル、前月比 574 億ドル減と、前月の 939 億ドル減からは減少幅が縮小する見込みとなっ
ている。

中国の外貨準備の推移



(出所) Bloombergの集計を基にマネックス証券作成

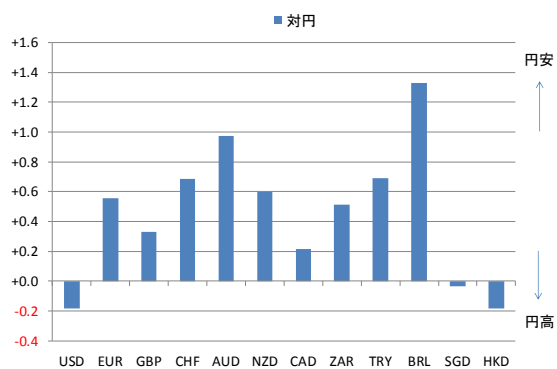
日銀決定会合の結果発表時刻(09年以降)

	全サンプル	政策変更あり	政策変更なし
平均	12:40	13:20	12:29
4月、10月第1回会合	12:42	13:09	12:34
4月、10月第2回会合	13:25	13:41	13:18
その他月	12:31	13:17	12:19

	全サンプル	政策変更あり	政策変更なし
中央値	12:32	12:56	12:24
4月、10月第1回会合	12:36	13:38	12:29
4月、10月第2回会合	13:31	13:37	13:18
その他月	12:26	12:50	12:18

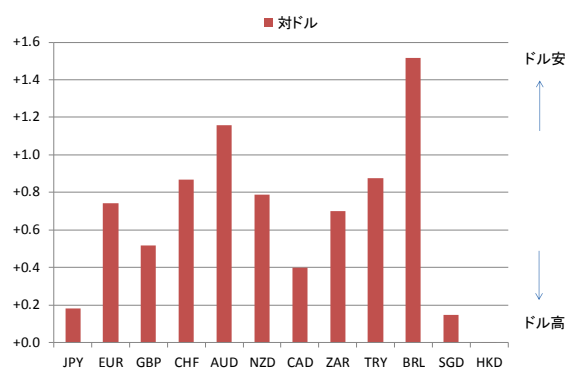
(出所) 日銀の情報を基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



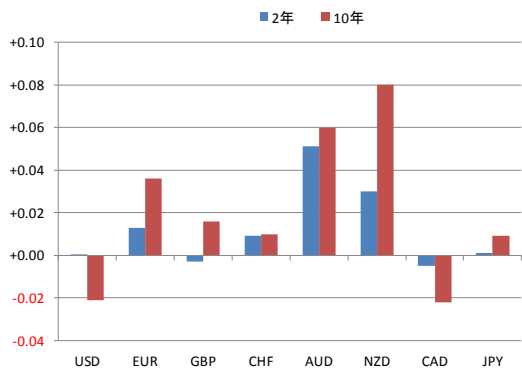
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



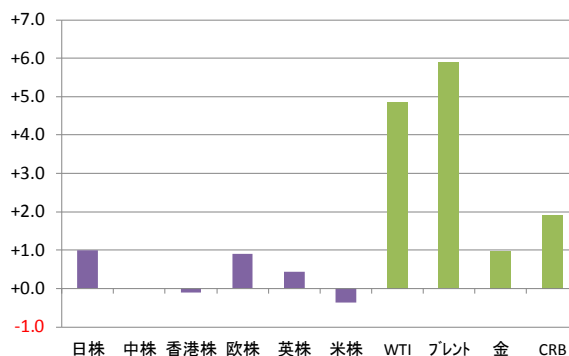
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会